

# 「どうする家康」

## おお ばめんせつめい 大まかな場面説明

ながしの たたか すこしまえ おかざきじょう とくがわいえやす おだのぶなが かしん つ よ ばめん  
長篠の戦いの少し前で、岡崎城にて、徳川家康が織田信長に家臣になるように詰め寄られる場面

## いわ ばめんせつめい 詳しい場面説明

たけだかつより ねがえり ながしのじょう ろうじょう おくだいらのぶあき のぶなが いえやす むすめ かめひめ せいりやくけつこん も  
武田勝頼から寝返り、長篠城に籠城している奥平信昌に信長は、家康の娘、亀姫との政略結婚を持ち掛けている。信長は長篠城に援軍を送るべく岡崎城に立ち寄った。

えんだんぼなし から きよすいらい めいやく しゅうりょう かしん つ よ ばめん かめひめ のぶあき と  
縁談話も絡めて、清州以来の盟約を終了し、家臣になるように、詰め寄られる。亀姫は、信昌に嫁ぐ意思を表示して、ひれ伏している。『さあ、どうする家康』

ながしの たたか てんしょう3ねん 1575 5月21日 たけだかつよりたいおだ とくがわれんごうぐん たたか  
※長篠の戦い 天正3年(1575)5月21日に武田勝頼対織田、徳川連合軍の戦い

- **徳川家康** せきがはら たたか おおさかふゆ じん おおさかなつ じん しゅうり 300ねんつづ えどぼくふ ひら  
関ヶ原の戦い、大坂冬の陣、大坂夏の陣、に勝利し300年続く江戸幕府を開いた。
- **織田信長** てんかびと すんぜん あけちみつひで はんぎやく しきよ  
天下人になる寸前で、明智光秀の反逆により、死去
- **瀬名(築山殿)** とくがわいえやす せいしつ ごとく かんけい のぶなが しざい めい  
徳川家康の正室、五徳との関係がこじれ、信長から死罪を命じられる。
- **亀姫** いえやす せな むすめ おくだいらのぶあき とつ えどじだいしよき ぞんめい  
家康と瀬名の娘、奥平信昌に嫁ぎ、江戸時代初期まで、存命
- **松平信康** いえやす せな むすこ のぶなが むすめごとく つま ごとく のぶなが じきそ せな  
家康と瀬名の息子、信長の娘五徳を妻にしたが、五徳の信長への直訴により、瀬名と同じく死罪
- **五徳** おだのぶなが むすめ とくがわけ かんしやく のぶやす よめい  
織田信長の娘、徳川家の監視役もかねて、信康に嫁入りした
- **羽柴秀吉** おだのぶなが こしぎんちやくてき やくわり のぶなが な あと てんかびと  
織田信長の腰巾着的、役割をしていたが、信長亡き後、天下人になる
- **奥平信昌** もともととくがわいえやす つか たけだしんげん つか しんげん な たけだかつより だい  
元々徳川家康に仕えていたが、武田信玄に仕え、信玄亡きあと、武田勝頼の代で、徳川、織田に寝返った。江戸時代初期まで、徳川家に仕えた。
- **鳥居強右衛門** おくだいらのぶあき かしん とくがわいえやすえんぐん しら ながしのじょう でんれい とちゅう たけだ  
奥平信昌の家臣、徳川家康援軍の知らせを長篠城に伝令する途中で、武田につかまり、磔拷問にされるが、口を割らなかつたと言いつた  
い つか  
言い伝えられている
- **武田勝頼** たけだかつより ながしの たたかい おだ とくがわれんごうぐん やぶ すいたいご こうしゅうせいばつ じがい  
長篠の戦いで、織田、徳川連合軍に敗れ、衰退後、甲州征伐により、自害した

とくがわけかしん  
徳川家家臣

さかいただつぐいししかわかずまさ ほんだただかつ さかさばらやすまさ ほんだまさのぶ いいなおまさ とりいもとただ おおくぼただしよ  
酒井忠次、石川数正、本田忠勝、榊原康政、本田正信、井伊直政、鳥居元忠、大久保忠世

ひらいわちかよし  
平岩親吉

\*\*\*\* は後に徳川四天王と呼ばれた。